

昔も今も、

こんぴら

〜金刀比羅宮のたからもの〜

さん。

2015年5月22日(金)〜7月12日(日)

主催…金刀比羅宮、あべのハルカス美術館、産経新聞社、関西テレビ放送
協賛…清水建設、今治造船、琴参閣

作品保護のため展示替えを行います。

前期…5月22日(金)〜6月14日(日)

後期…6月16日(火)〜7月12日(日)

出品目録

No.	指定	作品名	作者名	時代	材質・技法	員数	寸法(cm)	展示期間
17	●	遊虎図(北面左)	円山応挙	天明7年(1787)	紙本墨画金砂子撒	襖四面	各182.5×115.5	全期
16	●	遊虎図(北面右)	円山応挙	天明7年(1787)	紙本墨画淡彩金砂子撒	襖四面	各182.5×106.5	全期
15	●	遊虎図(東面)	円山応挙	天明7年(1787)	紙本墨画淡彩金砂子撒	襖四面	各182.5×139.0	全期
14	●	芦丹頂図	円山応挙	天明7年(1787)	紙本墨画淡彩金砂子撒	襖四面	各182.5×91.5	全期
13	●	金毘羅狗図	平林春一	昭和13年(1938)	絹本着色	一幅	110.0×42.5	全期
12		不動明王像	伝巨勢金岡	室町時代	絹本着色	一幅	89.9×37.8	全期
11		弁才天十五童子像	伝巨勢金岡	室町時代	絹本着色	一幅	129.0×53.0	全期
10	●	木造十一面観音立像		平安時代	木造彩色	一体	高さ145.7	全期
9	●	崇徳天皇御影	菊池容斎	明治6年(1873)	絹本着色	一幅	119.1×37.9	全期
8		大物主神御影	菊池容斎	明治6年(1873)	絹本着色	一幅	119.0×38.0	全期
7		象頭山十二景図	賛 林鸞峰 画 狩野安信 林鳳岡 狩野時信	江戸時代	紙本墨画着色	十二幅対	各120.0×51.4	前期 六幅 後期 六幅
6		象頭山社頭並大祭行列図屏風	伝狩野清信	元禄末年頃(1703〜1704)	紙本着色金砂子撒	六曲一双	各140.8×350.4	全期
5	□○	船模型「表菱垣廻船金比羅丸」	海部屋市左衛門	寛政8年(1796)奉納	木造	一艘	全長270.2	全期
4	○	海難図絵馬		昭和7年(1932)奉納	板着色	一面	48.5×61.5	全期
3	○	海難図絵馬		明治33年(1900)奉納	板着色	一面	88.7×117.0	全期
2	○	船絵馬	繪馬屋藤兵エ	明治21年(1888)奉納	紙本着色・板	一面	96.5×196.0	全期
1	○							

【指定】 ●重要文化財 ○重要有形民俗文化財 □県指定有形文化財



金刀比羅宮略年表

和暦	西暦	ことわり
長保三	一〇〇一	一条天皇の勅命により、藤原実秋が社殿・鳥居を修築する(伝承)
長寛元	一一六三	保元の乱(一一五六)で敗れ、讃岐国に配流されていた崇徳天皇が参拝参籠する(伝承)
永万元	一一六五	前年崩御の崇徳天皇御霊を大物主神と合祀、二柱の御祭神を祀る(伝承)
天正元	一五七三	一月 別当金光院権少僧都宥雅が松尾寺(後の金毘羅宮)金毘羅宝殿を造立する
天正六	一五七八	長宗我部元親による戦禍に見舞われる(同一二年まで)
天正一一	一五八三	長宗我部元親が三十番神社の葺き替えを行う
天正一二	一五八四	一〇月 長宗我部元親が松尾寺仁王堂を造立する
天正一三	一五八五	八月 豊臣秀吉より讃岐を与えられた仙石秀久が松尾寺に制札を出す 一〇月 仙石秀久より一〇石の寄進を受ける この年、仙石秀久より源信国作太刀一振の献納を受ける
元和九	一六二三	金毘羅本社ができ、古堂は行者堂に引き直す
正保二	一六四五	一月 别当宥暉が参府し、將軍徳川家光にお目見えする この年、讃岐高松藩初代藩主松平頼重が三十番神社を改築する
慶安元	一六四八	二月 徳川家光より金毘羅権現社領三三〇石の寄付を受け、山林竹木諸役等免除の朱印状を授けられる 八月 松平頼重が「三十六歌仙額」(No.32)を奉納する
慶安二	一六四九	一月 松平頼重が用材を寄進した大門が上棟する
慶安四	一六五一	八月 松平頼重が寄進した木馬舎が上棟する この年、大門を改築竣工し、新たに仁王像を造って安置する(後に仁王門と呼ばれる)

万治二	一六五九	四月 御本社を下遷宮する 八月 御本社を上遷宮する この年、観音堂と金剛坊を移転する
延宝元	一六七三	一二月 松平頼重が多宝塔を建立、寄進する
延宝年間	一六七三 〜八一	狩野安信・狩野時信筆「象頭山十二景図」(No.6)が成る
元禄一六	一七〇三	この頃、「象頭山社頭並大祭行列図屏風」(No.5)が描かれる
享保三	一七一八	七月 將軍徳川吉宗より社領の朱印状を授けられる
宝暦一〇	一七六〇	五月 勅願所となり、朝廷より日本一社の繪旨を受ける
明和元	一七六四	奥書院を修理する。伊藤若冲が奥書院上段の間に「花丸図」(No.22)、二之間に「山水図」、三之間に「杜若図」、広間に「垂柳図」を描く
安永八	一七七九	二月 將軍家へ正月、五月、九月祈禱の巻数を献上するように申し渡される(実質上、幕府の祈願所となる)
天明二	一七八二	正月 肥前国の青柳仲右衛門により、司馬江漢筆「扇面旭日鶴亀図」(No.43)が寄進される
天明三	一七八三	一〇月 江戸新大橋の某により勝川春章筆「見立女三宮図」(No.39)が奉納される
天明四	一七八四	三月 御影堂にて弘法大師九五〇年忌を営む
天明七	一七八七	夏、円山応挙が表書院の襖絵「稚松丹頂図」(No.13)、「芹丹頂図」(No.14)、「遊虎図」(No.15)〜18)を描く 絵馬堂上棟する
寛政元	一七八九	
寛政六	一七九四	一〇月 円山応挙が表書院に襖絵「竹林七賢図」(No.19,20)などを描く
天保一五	一八四四	五月 有栖川宮御代参の岸岱らが来社する 六月 岸岱が奥書院襖絵を描く 一〇月 岸岱が「陵王図・桜樹太鼓図衝立」(No.21)を描く

和暦	西暦	できごと
安政七	一八六〇	三月 「琴棋書画図小襖」(No. 35)の絵師、冷泉為恭が関白九条尚忠の奉行として宮に二ヶ月間逗留する
明治元	一八六八	七月 神祇官より金刀比羅社を金刀比羅宮と改める旨達せられる。観音堂・仁王門・多宝塔などを廃す
明治四	一八七一	国幣小社に勅定され、事刀比羅宮となる
明治五	一八七二	四月 琴陵宥常が事比羅宮権宮司に任ぜられる 七月～八月 仏像、仏画などの焼却、売却が行われる
明治六	一八七三	三月～五月 琴平山博覧会が開催される
明治二	一八七八	四月 御本宮再営正遷宮が行われる。阿野郡松山旧頓證寺堂宇を当宮境外摂社として白峰神社を創建する 崇徳天皇を奉祀し、御相殿に待賢門院・大山祇命を奉祀する 八月 高橋由一が「二見ヶ浦図」を奉納する 一月 高崎正風を介して、由一より自分が主催する画塾「天絵社」拡張資金融資の依頼を受ける この年、後深草天皇が白峰の崇徳天皇廟に奉納した「なよ竹物語絵」(No. 34)が宮の所蔵品となる
明治二	一八七九	二月 高橋由一より三五点の油絵の奉納を受け、天絵社へ二〇〇円の補助金を出す 三月～六月 琴平山博覧会が開催される。 由一の油絵三七点が出品される
明治三	一八八〇	三月～六月 琴平山博覧会が開催される。由一の油絵三〇点が出品される 二月 由一が琴平に滞在し、「鯛(海魚図)」(No. 29)、「桜花図」(No. 30)を奉納する
明治四	一八八一	一月 高橋由一が「琴陵宥常像」(No. 24)、「琴平山遠望」(No. 23)などを完成させる
明治六	一八八三	七月 森寛齋が「葡萄栗鼠図」(No. 41)を奉納する
明治九	一八八六	四月 琴陵宥常が事比羅宮宮司に任ぜられる

明治二二	一八八九	七月 漢字表記が「事比羅宮」から「金刀比羅宮」へ戻る
明治二四	一八九一	六月～七月 臨時全国宝物取調局による金刀比羅宮調査の結果、「なよ竹物語絵」(No. 34)他に鑑査状の発行を受ける
明治三八	一九〇五	七月 久留正道設計による洋館建築の宝物館を開館する
大正三	一九一四	二月 崇徳天皇御鎮座七五〇年臨時大祭を開催する
大正二	一九二三	二月 金刀比羅宮に図書館を開館する
昭和二	一九二七	この年、帝国水難救済会創立三〇年記念として琴陵宥常銅像を建設する
昭和三	一九二八	一〇月 図書館付属学芸参考館が開館する
昭和二五	一九五〇	四月 『こと比ら』創刊 八月 表書院の円山応挙筆襖絵(No. 13～20)、「なよ竹物語絵」(No. 34)、「弁才天十五童子像」(No. 10)など、金刀比羅宮の旧国宝が重要文化財に指定される
昭和二七	一九五二	六月 京都蹴鞠保存会琴平支部を金刀比羅宮蹴鞠会と改称する この年、蹴鞠が無形文化財に指定される
昭和六〇	一九八五	六月 金刀比羅宮の新庁舎が竣工する
平成七	一九九五	九月 金刀比羅庶民信仰資料収蔵庫の竣工式が行われる
平成一三	二〇〇一	一月 琴陵容世が宮司に就任する
平成一六	二〇〇四	四月 長らく行方がわからなかった高橋由一筆「琴陵宥常像」(No. 24)が宮司宅にて発見されたことを公表する
平成一九	二〇〇七	九月 大遷座祭のときに旧社務所を高橋由一館として開館する
～二〇	～〇八	「金刀比羅宮書院の美 応挙・若冲・岸岱」展が東京藝術大学美術館金刀比羅宮、三重県立美術館、フランス国立ギメ東洋美術館を巡回する(フランスでは「こんぴらさん海の聖域展」)